

令和 7 年度 第 2 回安城市図書館協議会会議録

日 時	令和 7 年 9 月 1 9 日（金） 午後 3 時	
場 所	アンフォーレ本館 3 階健康支援室・講座室	
出席委員	浮森 和美	委員
	安田 雅人	委員
	永井 江美子	委員
	杉田 加代子	委員
	熊谷 忠信	委員
	神谷 秀樹	委員
欠席委員	家禰 淳一	委員
	宮崎 久美子	委員
事 務 局	石川 良一	教育長
	横手 憲治郎	市民生活部長
	杳名 広紀	アンフォーレ課長兼図書情報館長（以下館長）
	鈴木 美穂	アンフォーレ課図書サービス係長
	深津 悠	アンフォーレ課図書情報係長
	角谷 美咲	アンフォーレ課図書情報係主事補
閉 会	午後 4 時	

事務局：本日はお忙しい中、令和 7 年度第 2 回安城市図書館協議会にご出席いただきまして誠にありがとうございます。

家禰委員と宮崎委員は、本日、欠席の連絡をいただいております。図書館協議会は、安城市図書館管理規則第 25 条第 1 項で、委員の半数以上が出席しなければ会議を開くことができないと規定しています。本日は委員 8 人のうち 6 人がご出席いただいておりますので、会議は成立いたします。

それではまず、市民憲章の唱和を行います。皆様ご起立をお願いします。市民憲章は、次第の裏面に記載されていますので、ご覧ください。

<市民憲章唱和>

ありがとうございました。ご着席ください。

次に、石川教育長がご挨拶を申し上げます。

＜教育長挨拶＞

それでは、次第２の「協議・報告事項」に移ります。ここからは、慣例により、取り回しを浮森会長にお願いいたします。

会長：それでは、協議・報告事項の「第５次安城市子ども読書活動推進計画について」事務局の説明をお願いします。

＜鈴木係長が、「別冊」を説明＞

会長：ありがとうございます。ただいまの説明について、ご質問、ご意見等がありましたら、ご発言をお願いします。

委員：第５次計画について、とても分かりやすくまとめられていると思います。これまでの取組みの成果がしっかり反映されていると感じました。やるべきことが色分けされていて、非常に見やすいですが、もう少し工夫できる点もあるかもしれません。

具体的には、これまでにない新しい取組みや、特に力を入れている部分を太字で強調すると、さらに分かりやすくなるのではないかと思います。

また、発達段階に応じた取組例についても非常に分かりやすいですが、新たに追加された項目や強調されている部分をもっと目立つように工夫されていると、より理解しやすくなると感じました。

館長：ご意見ありがとうございます。委員が言われていることはよく分かります。しかし、全ての取組みが大事と考えています。この計画書の中に書かれている内容のどれが最も効果的に子どもたちに本を読ませるかというエビデンスは、正直なところまだありません。

子どもによってはデジタルツールが響く場合もあれば、読み聞かせが響く場合もあるというように、それぞれの成長過程や家庭環境によって異なります。どの事業がどれだけ読書の結果に結びつくかは、計り知れない部分があります。第４次計画においても、不読率が低かったという指摘がありましたが、それをもって今までの事業が無駄だったとは決して思いません。

これまでの事業をブラッシュアップしたり、踏襲したり、新たに加えていくことも含めて、子どもたちにより良い読書環境と機会を提供

したいと考えています。ですから、どの項目を特に強調するかと言われると、全て重要であり、全てに力を入れたいというのが正直なところですよ。

全ての取組みが重要であり、どれも欠かすことはできないため、太字にする項目を選ぶのが難しいという事情をご理解いただければと思います。

委員：分かりました。先ほどのご説明の中で、この取組例について、これはあくまでも例であって、取組みの中で見直しをしたり追加したり、柔軟に対応できるようにしたいとおっしゃっていました。また今おっしゃったように、全てが重要であり、見直しや追加が途中でも行われるということですね。その点についてはよく理解しました。

館長：ありがとうございます。追加ですが、第4次推進計画では、例えば「年何回やる」といった具体的な書き方がされていましたが、コロナ禍のような予期せぬ事態が起こると、計画通りに進められないことも考えられます。

最近では、生成AIの進歩なども目覚ましく、今具体的に何かを計画に書いても、来年には時代遅れになってしまう可能性があります。特にデジタル分野に関する書き方については、慎重に考える必要があるかもしれません。ですから、それも含めて、最終的な目標をしっかりと見据え、都度環境に応じた調整を行いながら、各課全体で進めたいと思っています。

委員：ご説明ありがとうございます。よく分かりました。

委員：冒頭でお話された「子どもたちが自主的に読書に向かう環境や機会」というキーワードは、本当に重要だと思っています。以前も申し上げましたが、先生や親から「ゲームばかりせず本を読め」と言われても、子どもたちはなかなか読まないものです。

では、どういう時に読むかというと、私の経験から言えば、尊敬する人が「夏目漱石を読んだけど良かった」などと言っていると、自分も読んでみようと思ったものです。これは私の経験に過ぎませんが、こうした読書への興味を引き出す仕掛けが何かないかと考えています。

例えば、「中学生のおすすめ本紹介」や「同世代の意見を取り入れる」といった機会を設けるのは良いと思います。実際に中学生の意見

が掲載されているのを見て、良い取り組みだと感じました。

可能であれば、本屋大賞やベストセラーのデータに加えて、年代別の貸出データを活用してはいかがでしょうか。中学生や高校生に人気の本や、親御さんが借りる絵本のデータなど、「今これが関心を集めています」という形で提供できれば、興味を引くのではないかと思います。

事務局：何が一番借りられているかという統計は「ベストリーダー」として毎年図書館概要に載せています。ただ、これが年代別では今のところ出しておらず、一般書と児童書という形での掲載となっています。もし年代別のデータが出せれば、そういったデータも活用できるかもしれません。

また、中学生の職場体験で来てくれた子たちに POP を書いてもらい展示する取り組みを今年から始めています。これも継続していきたいと考えています。それ以外にも、各学校で積極的に取り組んでいる POP 作りを図書館で展示するなど、学校単位でのおすすめ本紹介やベストリーダーとして紹介できればと思っています。

さらに、中高生向けに司書がおすすめする本を隔月で各中学校と高校に配布していますが、これも司書が選んだ本だけでなく、他の学校の生徒がよく読んでいる本などの情報も載せていけたらと考えています。こうした取り組みを通じて、同世代の子たちが読んでいる本に関心を持ってもらえるように、紹介の仕方を工夫していきたいと思います。

委員：そうですね。刺激を与えて、モチベーションを高めることは本当に大切だと思います。よろしくお願いします。

委員：12 ページのところですが、中学生向けの「本の魅力を伝えるため」という部分と、その下の「同世代の意見を取り入れた展示」が少し重複しているように思います。これらを一つにまとめた方が良いのではないのでしょうか。

それから、もう一つ細かい点ですが、5 ページの下から 2 行目に「資料 1」とありますが、正しくは「資料 2」ですね。同様の誤りがもう 1 箇所あったように思いますので、確認して訂正した方が良いかと思っています。

事務局：修正します。ありがとうございます。

会長：その他、ご意見ご質問等ありませんでしょうか。

委員：「イベント」や「講座」とまとめられているものの中に、具体的にどういうものがあるのか知りたいです。13ページに「出前講座やおはなし会、ブックトークの実施」とありますが、そこにビブリオバトルも加えていただけるとありがたいです。

安城市でもビブリオバトルが認識され始めており、参加する子どもたちも増えてきていますので、これを広めていけたらと思います。中学生向けの「機会」には書かれています、ビブリオバトルでも小学2・3年生の子たちが、自分が読んだ絵本や簡単な本について生き生きと発表してくれることがあります。そうした発表を聞くことで、他の子どもたちも「読んでみたいな」と思うきっかけになるとと思います。ぜひ取り入れていただけるとありがたいです。

会長：私からもよろしいでしょうか。13ページの表の機会のところで『読み聞かせの実施』が幼児で止まっているので、できればその対象を広げていただきたいと思います。

先日、安城学園高校の朗読会を聞かせていただき、その際に生徒と話す機会がありました。前日にストーリーテリングのおはなし会をしたという話をしたところ、生徒はストーリーテリングを全くご存じありませんでした。生徒は興味を持って聞いてみたいとおっしゃっていましたが、知らないためにどこで聞けるのかも分からない状態でした。

ですから絵本だけでなく、耳からの読書という形で、子どもたちに向けてお話を覚えて発表する機会が増えると嬉しいです。幼稚園や保育園でのお話も良いですが、内容によっては小中学生や大人向けの話もありますので、全年代を対象にしたおはなし会ができると良いなと思います。

また、おはなし会の際には、公民館や小中学校にチラシを配布したのですが、ターゲットとなる中高生の参加はゼロでした。中高生向けのイベントやおはなし会の情報をもっと効果的に伝えるツールや機会があると良いと思います。

事務局：読み聞かせの実施が幼児で終わっているように見えますが、本当はその下に、小学校低学年から高校までの「出前講座やおはなし会、ブックトークの実施」が続くように記載すべきでした。表が少しずつ

てしまったため、誤解を招いてしまいました。

読み聞かせとおはなし会は表現が異なりますが、中学校でもボランティアによるおはなし会が行われているため、高校生まで何かしらの形でお話を提供する機会を続けていきたいと考えています。

表を修正し、読み聞かせやおはなし会が継続していることを明確に示すようにいたします。ありがとうございます。

会長：他にご意見ないでしょうか。

館長：すみません、皆様にお知恵をお借りできればと思います。12ページの高校生向けの「機会」についてですが、他の学年に比べて非常に少ないと感じています。というのも、公立高校は県の管轄であるため、私たちとは普段あまりお付き合いがないのが現状です。高校生に対する機会を提供するツールが乏しいというのが正直なところです。

何か思いつきでも構いませんので、もしアイデアがあればお聞かせいただければと思います。よろしく願いいたします。

委員：またビブリオバトルにこだわってしまうのですが、やはり普段本を読まない人でも、聞く側でビブリオバトルに参加してもらい、同世代の人が夢中になって面白そうに本を紹介するのを聞けば、「ちょっと読んでみようかな」という気になるかもしれません。

安城高校でもビブリオバトルを熱心にやっている生徒がいますし、その生徒が友の会のビブリオバトルに来てくれることもあります。私たちも小学生の子どもたちのビブリオバトルを聞いて、「そんな本があるんだ」と思い、読みたくなることがあります。他の人が読んだ本を発表しているのを聞くのは、自分で読むよりもハードルが低いと思います。面白そうに話しているのを聞いて「読みたいな」という気持ちになってくれるのではないかと考えています。

会長：先ほどの耳からの読書に関連して、絵本1冊を丸ごと読むのももちろん良いのですが、例えば今一番人気のある本の、特に面白い部分や謎解きの直前の部分を声で聞かせる朗読会も良いのではないかと思います。1冊全部を読むのは難しいかもしれませんが、ある程度のあらすじと主だった部分を紹介し、その謎解きの直前を朗読するのはとても面白いのではないのでしょうか。

委員：私は読み聞かせについてあまり詳しくないのですが、図書情報館

としての目標は良いと思います。ただ、これが学校の場合、例えば孫たちの学校では毎月1回校長先生が読み聞かせをしているそうです。その話は1回で完結するもので、うちの子は非常に本が好きなので楽しんでいますが、あまり馴染めない子どもたちもいるようです。ただ、月に1回くらいなら良いと思いました。

こちらから発信するのはもちろん大事ですが、それを学校がどう受け止めるかも重要だと思います。例として、今年の夏は孫たちの学校では読書感想文の宿題がないそうです。いつからなくなったのか、学校の方針に任されているのかもしれませんが。強制的に読書をさせるのも嫌がられるかもしれませんが、やはり読書は大切だと思います。そのバランスが難しいところだと思います。

会長：アンフォーレでアニメーション*ってやられたことありますか。

事務局：アニメーションを行ったことはありません。

会長：小さい子どもたちはアニメーションを楽しんでやる人が多いです。ゲームのような要素があるので、全く読まない人を引き込むための入口として有効だと思います。講座を受けてみたら楽しかったです。

ツールとしては面白いかもしれません。例えば、読書まつりのようなイベントで、ビブリオバトルやアニメーション、読み聞かせ、そしてポップのコンクールなど、本や読書に関する様々な活動を詰め込んだ、びっくり箱のようなものがあれば、若い人たちや学生たちも興味を持ちやすいのかなと感じています。

委員：最初におっしゃった高校生の読む環境についてですが、アンケートによると、高校生は勉強などで時間がなく、本を読む時間が取れないという声が多いですね。非常に難しい問題だと思います。

ただ、基本的には、中学生や小学生の頃から読書の習慣をつけることが大切だと思います。今取り組まれている小学生や中学生への読書活動をしっかりと続けていくことが重要だと感じます。

あと、全然違う観点ですが、図書館のマイページはとても充実して

*子どもたちに読書の楽しさを伝えるとともに読む力を引き出すために1970年代から開発した、グループ参加型の読書指導メソッド。アニメーションはラテン語のアニマ（魂・生命）に端を発し、人間の魂・生命を活性化するという意味。

（日本図書館情報学会用語辞典編集委員会編．図書館情報学用語辞典．第5版，丸善出版，2020，p.4）

います。例えば、自分が読みたい本や興味のあるジャンルを登録しておく、新しい本が入った際に自動でお知らせが来る機能があります。しかし、多くの市民はこの機能を知らないのではないかと思います。こうしたデジタルツールをうまく活用してもらうことが必要だと思います。そのためには、様々な方法での周知が大切だと考えます。

例えば、毎月の広報の中に図書館のコーナーがありますよね。そこで、マイページでどんなことができるのかを紹介するのはどうでしょうか。また、小学校や中学校に直接行く機会があれば、その場でマイページにアクセスして、「こんなことができるよ」とデモをするのも良いと思います。安城市の図書館には便利な機能がたくさんありますので、それをいかに活用するかを検討すると良いと思いました。

会長：その他に、発言がないようでしたら、協議・報告事項については終了させていただきます。

本日予定されている議題は全て終了しましたので、事務局にお返します。

事務局：浮森会長、議事の取り回しありがとうございました。

それでは、最後に次第3「その他」でございます。

今年度の図書館協議会ですが、次回は11月6日（木）午後3時、第4回は来年3月16日（月）午前10時開催を予定しておりますので、よろしくお願いいたします。

最後に委員の方で、本日の協議会について、ご質問、ご意見等がございましたら、ご発言をお願いいたします。

よろしいでしょうか。

それでは、これもちまして、本日の協議会を終了させていただきます。お気をつけてお帰りください。本日はありがとうございました。

閉会 午後4時